

ヨーロッパのゴミ事情



ドイツ・ハイデルベルグにて

スポーツ施設を視察する

第一回黒埼町町民海外研修が行われる

十月二十三日から三十日まで、第一回黒埼町町民海外派遣研修（永井武弘団長）の一行が、ドイツ・フランスの両国を訪問しました。

この研修は、今後のまちづくりを担う国際的視野に立った人材を育成するため今年度より行われたもので、今回の参加者は十五人（ほかに事務局二人）でした。

一行は、まずドイツのフランクフルト空港に到着し、翌日、ドイツ最古の大学のある学園都市ハイデルベルグを視察しました。その翌日に、今研修の主要目的であるフライブルグ市の環境セミナーなどを研修しました。

フライブルグ市は、環境規制の厳しいドイツでも有数の環境保護が進んでいる都市で、午前中はゴミ処理仕分け業者のかたや建設資材などのリサイクル業者のかたのお話を聴き、ゴミ埋立地などを見学、午後からは市環境公社の係員から説明を受けました。参加者は、市、企業、市民の一体となったゴミ対策に感心していました。

また、フランスのパリでは世界的にも有名なスポーツ施設「レーシング・クラ

ブ・ドゥ・フランス」を見学し、プロ・ニューの森に囲まれたこの施設のことについて係員から説明を受けました。

参加者は、今回の研修で、まちづくりに参考となることを学び、その成果は、十二月五日に行われた「海外研修報告会」で、町幹部職員に報告しました。（報告会は次ページで紹介。）

日程

10/23	黒埼→成田
10/24	フランクフルト→ハイデルベルグ
10/25	ハイデルベルグ→フライブルグ
10/26	フライブルグ→バーデンバーデン
10/27	バーデンバーデン→ミュンヘン
10/28	ミュンヘン→パリ
10/29	パリ→パリ市内
10/30	パリ市内→成田→黒埼

町民海外研修に参加して

団長 永井武弘

町民を海外へ派遣研修視察をすることで国際的視野を広め意識の高揚を図り、町民総参加で住みよき、豊かな町づくりを推進することを目的に第一回研修に私達十五名、町長、担当課長で希望とロマンチックな夢を抱いてヨーロッパへ出発した。

今回の研修は地球的環境保護が叫ばれている今日、世界で最も環境規制の厳しいドイツで環境政策の推進に努めているフライブルグ市を学んだ。

この市は、人口が十九万人を越え、十世紀初めにつくられた長い歴史を誇る学園都市であり、主産業はワインの町だ。

午前中はゴミリサイクル工場、産業廃棄物再処理工場、六億五千万立方メートル・七十メートルの山になる埋立地を視察、午後から一般環境行政、交通プラン・ゴミエネルギー対策等の講義を環境公社にて受けた。

この市は毎週約二千トンのゴミが出され、その約二十％が再利用されている。市民、生産業者、市が一体になって資源を大切に、お互いにお金（収集料）を出し合って環境政策の推進に努めておられた。

また、交通問題でも、なるべく公害をもたず自動車への依存度を減らすため、車に乗らないで公共交通機関（市電）と、自転車利用で快適な人間生

活を中心に考えられた交通プランが打ち出されていた。市電の敷設が優先政策になり、大事な点として、交通弱者に対しての空間と安全性を考え、歩行者及び自転車道路が位置づけられていた。また、路面電車、バス等に見える「Regio環境カード」を発行して、市民が広範囲で利用でき、譲渡使用も家族利用も可能な定期券も発行されるなど、車の排気ガスの少ない交通政策が取られていた。

私がこの研修に参加した最大の目的は、世界的に有名なスポーツ施設の視察、研修であった。我が町は今年三月に第四次総合計画が策定されたが、以前に行われた町民意識調査でも公園や広場、スポーツ施設の整備を望む声が全体の五十パーセント以上もあった。黒埼町ファミリースポーツ公園の建設に関する請願書が町体育協会会長より提出、議会採択され、スポーツ振興審議会が設置され教育委員長より諮問がなされた。私は委員の一人としてこの施設「レーシング・クラブ・ドゥ・フランス」を見ておきたかった。

この施設を見たのは、研修日程の五日目で、パリはうすくもり、南北約四キロメートル、東西約三キロメートルという広大なプロ・ニューの森の中に一八八二年（明治十五年）設立さ

れた。会員制で会員一万六千人、テニスコート五十面、温水プール五十メートル、トレーニングルーム、レストラン三カ所、サウナ四カ所、更衣室（個室）等の施設があり七、五ヘクタールの大きさを、他の地方にゴルフ場十八ホール二カ所、九ホール一カ所、運動施設は市内に十八種目あり、このクラブから前のオリピックに四十五名派遣した。土地は市の所有で三十年毎に更新され、次の更新時には、地下に三五〇台の駐車場をつくる条件があると聞かされた。入会金は三万五千フラン、年会費七千フランで、クラブの経費は年一億七千万フラン、すべてを会費でまかっている。緑の森の中で生き生きとトレーニングに励んでいる姿を見て、我が町のスポーツ公園をぜひ実現したい気持ちだった。

観光については、ドイツ、ハイデルベルグ城、ルド・ヴィッヒ二世世が作り上げたノイシュバンシュタイン城、フランスでは、ノートルダム寺院、ベルサイユ宮殿、ルーブル美術館のミロのヴィナス、ダヴィンチのモナリザなど素晴らしいもの。しかし、ルーブルの美しきも団員十五名の友情の輪が出来た。この団結を町づくりに生かして載せたいと思った。

観光については、ドイツ、ハイデルベルグ城、ルド・ヴィッヒ二世世が作り上げたノイシュバンシュタイン城、フランスでは、ノートルダム寺院、ベルサイユ宮殿、ルーブル美術館のミロのヴィナス、ダヴィンチのモナリザなど素晴らしいもの。しかし、ルーブルの美しきも団員十五名の友情の輪が出来た。この団結を町づくりに生かして載せたいと思った。

フライブルグ市のゴミリサイクルの実状と具体策について

坂井弘子

ゴミは高度経済が進むにつれて、その発展と共に比例して増えていく。我が国でもゴミ処理問題はかなり深刻な状況と聞いているので、この海外研修にあたっては興味を持って見聞して来た。

フライブルグ市のゴミの徹底したリサイクルが出来た根幹には、市民、市議会、製造会社、清掃会社の多大な努力、協力体制が整っているからだと感じられた。

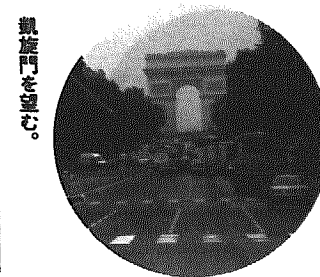
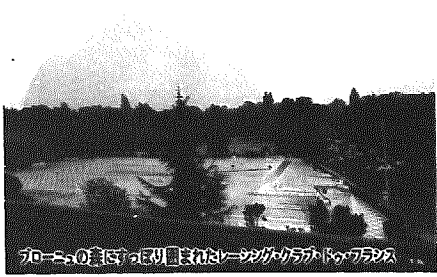
市内三百八十カ所に、数種ずつのダストボックスが設置されている。瓶はそれぞれ茶、白、緑瓶に識別されて、清掃会社が定期的に回収し、ゴミ処理場に運搬される。そこで更に分別されるが、色別区分によつては、清掃会社に持ち込まれたものは、ほとんどそれ以上分別しなくても良い様さちんと区別されている。

ここでドイツの国民性を認識させられる。くずガラス（透明）は、イタリアのガラス会社に委託して引き取りに来てもらい、また再生し、ガラス製品となる。ヨーロッパでは国境が地続きなので、国内の業者にこだわ

らず、どこの国でもコストの安い所に委託するそうだ。この点は合理的だと思つた。場所をフライブルグ市郊外へ移し、ゴミの山へと向かう。ゴミ清掃会社で処理されないものをそこへ搬入し、やがてそれは、緑地化されたゴミの山へと変身を遂げる。具体的に、山の基底部には粘土、次にゴミ、砂利という様にゴミの地層を造っていく。やがて雨が降るとその雨は下へ浸透し、有毒なメタンガスを発生する。このガス五十二％以上のものを集めて、ゴミ処理発電を行う。このゴミの山も見栄え良く植樹され、外観からは、とてもそれと想像出来ない様配慮されている。

ただ、二十五年にはこの山も限界となる様で、次の対策はまだ検討中との事だった。ゴミの再資源化に至るプロセスの中で、多少再考すべき点があるにしても、ここまで具体的な成果を上げているという事実は素晴らしいものであり、黒埼町だけではなく、日本のゴミ問題にも助言を戴いた様な気がした。私にとっても有意義な研修だった。

また、黒埼町だけではなく、日本のゴミ問題にも助言を戴いた様な気がした。私にとっても有意義な研修だった。



プロ・ニューの森に囲まれたレーシング・クラブ・ドゥ・フランス

フライブルグ市のゴミ処理工場を見学

シャンゼリゼ通りから

凱旋門を望む。